

第2次阿賀町総合計画後期基本計画（案）についての 提出意見の概要とその意見に対する回答

1. 意見募集期間 令和2年2月12日（水）から令和年2月26日（水）まで
2. 意見提出者数 5名
3. 意見提出件数 20件

整理 番号	計画案 該当 ページ	項目	意見の概要	意見に対する回答
1	60 ～ 62	農業	①稼げる町作り 農業を産業の柱とした町作り。耕作放棄地を含めた農地の基盤づくりにより、生産法人化・起業家の推進、町内及び外部企業への参入への支援、担い手の公募・育成、高校に農業科の設置・新規希望者への農業指導等。農業の活性化により（6次産業化）引きこもりがちな高齢者の活躍の場を広げ地域コミュニティの強化。課題は多くあると思いますが町作りの中心に掲げて頂きたい。	後期基本計画では、「新たな農林水産業振興」として、農業を重点施策として位置付けています。農業を産業の柱とするためには、生産・加工・販売まで行う6次産業化を図るなど、数駅に繋がる取り組みが重要であると考えます。担い手不足や有害鳥獣対策の強化を図りながら、農産物の付加価値や地域特性を活かした複合経営など取り組みを進めます。また、集落支援員や地域おこし協力隊と連携し、農業を通じた地域コミュニティの強化を図り、高齢者の活躍の場や生きがいの創出を図ります。
2	21 87	人口減少社会	②人口減少に見合った町作り 集落の統廃合・区割り制度の見直し、地域（集落）内で解決できるものは地域内で解決できる仕組み作り。また人口減少が避けられないなかダウンサイジング・コンパクト化を進める時期に来ていると思います。広大な面積と多数の集落を抱える阿賀町では厳しいかと思うが、集落消滅が現実化しており、具体的な施策が望まれる。	集落の集約などコンパクト化については大変難しい課題であると考えております。この5年間では、地域の活性化に力を入れ、人口減少を意識したまちづくりとして、21ページの第2節人口の将来展望の（4）目指すべき将来の方向では、「人口減少社会においても活力のある地域を維持することを目指し、これからのまちづくりを進めていきます。」と記載しています。また、87ページでは、「集落支援員や地域おこし協力隊、ボランティア団体と連携を強化し、地域の活力伝統文化の継承を図り、地域の機能維持、更には活性化まで結びつける」と記載しており、地域の活性化を図る施策を展開します。
3	58	基本目標4 地域の特性 を活かした 稼ぐまちづ くりについ て	平成14年から開始し、17年連続して実施している「奥阿賀体験教育旅行」事業をこの中に含めるべきである。本事業は、平成16年には4,500人の生徒が阿賀町を訪れている。また、平成22年にはその経済効果は7,000万円の実績を残している。	「奥阿賀体験教育旅行」事業については、58ページの基本施策4-1、1交流人口・関係人口の増加対策の現状と課題や、59ページの基本方針と施策の展開の「観光イベント等の充実を図る。」でも読み取ることができますが、ご指摘のとおり大きな実績があることから、2.観光の振興、イベント・施設等の充実の現状と課題に追記します。

整理番号	計画案該当ページ	項目	意見の概要	意見に対する回答
4	47 ～ 48 64	阿賀町への関心を高めるための施策	阿賀町には十分にPRするメニューがある。関心を高めてもらう施策が必要。 新潟市まで車で約1時間と、ちょうどいい感じの田舎に遭えるという環境に関心を持ってもらうため、町内の研修旅行を町内外に向けて毎月計画する。 また、町に花壇を整備し、フラワーボックスや水仙、アジサイの植栽を行う。	町観光協会を中心に、高い頻度で阿賀町の関心を高めてもらうようなイベントを実施しています。 町民はもとより町外の人にも町の魅力を再確認していただけるようなイベント等を今後とも継続して企画し、まちぐるみで観光情報の発信を図ります。 花壇の整備につきましては、各集落が主体となって実施している地域があり、毎年春先には花運動として保育園児や小学生が中心となって植栽を行っています。町としては「雪椿」の植栽を行い、「雪椿の町」として観光誘客を推進します。
5	56	空き家対策	一時的でもいいという気持ちにさせる移住の促進。「セカンドハウス構想」。空き家の有効利用に、家庭菜園をプラスする。	「阿賀町空き家等情報登録制度」により、空き家及び空き地の紹介を実施しています。農地付きの空き家物件も取り扱っており、家庭菜園としての利用も可能となっております。後期基本計画では制度の更なる拡充を図るべく、空き家の賃貸料や改修等費用等の助成を行い、移住希望者の住まいに関する支援を充実させます。
6	43 47 ～ 48 58	学校教育 地域資源 生涯学習	阿賀町の新しい宝物を活かした取り組みを推進する。 ・雪椿を活かした取り組み ・公営塾黎明学舎 ・阿賀の近代産業ものがたり（紙芝居）	・雪椿に関する取り組みは、整理番号4で回答したとおりです。 ・黎明学舎については、基本目標1、基本施策1-3、1.学校教育の振興において「黎明学舎を中心とした生徒の支援体制を強化する」と記載しています。 ・阿賀の近代産業については、基本目標3、基本施策3-2、2.阿賀町から世界へ羽ばたく子どもたちを育てるでは、「郷土を知り郷土を愛する青少年の育成と郷土学習指導者を育成する」と記載しており、近代産業についても対象としています。また、鹿瀬支所においてパネル展等を展開する等、近代産業に関する普及啓発に努めています。
7	30 36 50 51 89	重点施策等	町の課題について、今まで取り組まれなかった内容に踏み込んでいるように感じられた。 ・婚活 ・定住移住対策（空き家対策） ・男女共同参画社会づくり ・移住コーディネーター	町の最重要課題である「人口減少とそれに伴う少子高齢化」を解決するための重点施策として位置づけられていることから、後期基本計画期間内においても特に優先的・重点的に取り組みます。

整理番号	計画案該当ページ	項目	意見の概要	意見に対する回答
8	87	人口減少社会	今後、人口減少に伴い、人が減るのに事業や企画をこなすことができるのか、減らすこと、縮小するのも視野に入れる必要があると感じる。	人口減少によりコミュニティ機能の低下や人材不足が懸念されますが、整理番号2で回答したとおり、今後5年間においては集落支援員や地域おこし協力隊、ボランティア団体等と連携した地域の機能維持、活性化を目的とした施策を展開します。
9	88	地域共生	単発の企画、取り組みではなく課の連携、行政と住民、企業との連携などした企画の方がうまくいくのではないかと。阿賀町独自の仕組み作りに挑戦してほしい。	横断的な目標1の基本施策7-2、1. 多様な人材の確保では、「町やNPO、民間企業等の地域の多様な主体が連携した中間支援組織確立に向けた体制構築を推進する。」と記載しています。町の独自性については審議会でもご指摘がありましたので、地域の強みを活かした企画、取り組みを目指します。
10	97～98	情報発信	情報発信が弱いので、住民に届くお知らせの仕方を考える。工夫する。	SNS等を活用し、リアルタイムにイベント等の情報発信を行っておりますが、更なる効果的な運用について改善を図ってまいります。今後は町のホームページ見直しなど、町民生活に必要な情報提供とお知らせの仕方については更に工夫するよう進めます。
11	47	資源の循環利用	阿賀町は生ごみにプラスチックも混ぜられるので、温暖化対策のプラスチックに対する認識が薄い。環境問題全般に対する講座や啓蒙活動が必要ではないかと。	阿賀町では現在、廃プラスチック類はペットボトル、白色トレイのみ分別収集しています。3市町で建設するマテリアルリサイクル施設（令和6年度完成予定）完成に合わせ他の廃プラスチックも分別収集する準備を進めています。これに併せて環境問題全般に対する啓蒙活動についても実施を進めます。
12	50	移住者支援	移住コーディネーターの活動に入るかもしれないが、移住者に対する丁寧な対応（町のパンフレット・町の内容が分かる資料の啓示と説明・イベントへの案内など）必要かと思う。	移住コーディネーターの活動として予定しています。定住用パンフレットを令和元年度末に作成予定であり、これを活用した定住促進やイベント等の積極的な参加等を進めます。

整理番号	計画案該当ページ	項目	意見の概要	意見に対する回答
13	51	移住者支援	移住者に対する支援を充実させるために「魅力あるまちづくり」を進める。の「魅力あるまちづくり」とはどんな町なのか、それを明確にしたほうが達成しやすい。	「魅力」については、各々により様々なコンセプトがあるかと存じます。移住定住の促進に向け住民はもちろん町外の方々のご意見も参考にしながら、幅広い魅力の創出に繋げていきます。
14	59	特産品	町の特産品を一堂に集めた物産館もしくは販売所が必要。新しい特産品ができた際はお披露目会もしくは展示会を役場で行う。	基本目標4の基本施策4-2、1.生産基盤の強化では、特産品化と生産量の増加を促進する施策として「阿賀町マンマの「町内で買える食べられる」コンセプトの実現を支援する」と記載しています。ご提案をいただいたアイデアを踏まえ、既存の嫁入り屋敷や役場本庁舎、各支所ロビー等を活用した展示等を検討します。
15	89	男女共同参画社会づくり	特に女性の意識を向上させるために、セミナーや講座を企画する。特に食や健康に対して意識が高いので、その分野に対して女性をリーダーにした企画を仕掛ける。	横断的な目標1の基本施策7-2、2.男女共同参画社会づくりでは「男女共同参画意識を高めるため、広報紙等による啓発記事の掲載、啓発ポスターの設置、啓発PR冊子の配布など進める」と記載しています。セミナーや講座の企画については、明確にするよう「様々な広報活動及び啓発活動を進める」と追記します。
16		全般的事項	阿賀町には様々な事業があるが、何事にも取り組みが遅いという感じを受ける。まずはやってみたらという思いがある。	後期基本計画では、最重要課題を「人口減少とそれに伴う少子高齢化」とし、課題解決のための重点施策を5つ設定しています。人口減少対策は効果が表れるまでに長い時間を要しますが、出生率が早く向上すれば、将来人口に与える効果が大きいことから、人口減少は早急に対応すべき「待ったなし」の課題です。ご指摘の通り、これまで以上にスピード感をもって事業に取り組みます。
17	38	学校教育	新潟県に働きかけ、阿賀黎明高校に「ボート科」の新設を働きかけてはどうか。 ボートを造る（阿賀町は木の町）→ボートを研究する→ボートを使う（ボート部。小中学校にはボートクラブ）→大会に積極参加。 一歩進んだ思い切った活性化を考えないと学校がなくなる恐れがある。	阿賀黎明高校の生徒への支援を充実する一方、同校自体が他の高等学校との差別化を図り、魅力ある進学先として選ばれるために思い切った独自のカリキュラムの設定が必要と認識しているので、今後も同校との協議を進めていく中で検討を要望します。

整理番号	計画案該当ページ	項目	意見の概要	意見に対する回答
18	38	学校教育	黎明学舎は町がお金を出しているのだから、高校生を対象とするのではなく、小中学生を対象にして学力の向上を図る方が良い。小さい学校でしかできない教育を考えるべき。町には塾はないが、良い高校を目指す子どもはいっぱいいる。黎明学舎を土日に開校し、小中学生を育て、学力県内1位を目指す。今は黎明高校を希望する子どもが少なくなっている。黎明学舎から黎明高校に進学し、大学を目指す子どもを育てたらどうか。	黎明学舎は、阿賀町に一つしかない阿賀黎明高校の存続に向け、同校を魅力ある高校にし、進学先として選ばれる高校にすることを主な目的として立ち上げられました。同校がなくなった場合、町の人口減少や経済の縮小など多大な影響が推測されます。現在、同学舎では、同校の生徒の学力向上や希望する進学の達成に向けた各種支援を行っています。が、今後は阿賀町の教育における保育園から高校までの連携した15年教育により、自ら未来を切り拓く力を持ち、阿賀町の将来を担う子供を育成するため、高校に限定せず中学校等にも活動の場を広げていく予定です。
19	58 65	観光	阿賀町にはどこにも負けない産物がある。しかしそれを売ったり食べさせてくれるところがない。観光産業のひとつは買い物と食べ物。国道49号線沿いの津川に道の駅を作ってはどうか。軽トラックを並べても、テントの店舗でも、土日に行けば買える、食べられる場所の提供が大事だと考える。また、三川サービスエリアへのスマートICの建設を進めてほしい。	産物の場の提供については、整理番号14で回答したとおりです。ご提案をいただいたアイデアを踏まえながら事業の推進を図ります。阿賀野川サービスエリアから国道とを結ぶスマートインターチェンジについては、「東北横断自動車道促進期成同盟会」を通じて国、県に高速道の4車線化の早期実現と併せて要望しており、今後も継続して要望していきます。
20	88	生涯学習	お年寄りが幸せに暮らせる町にしたい。絵手紙や切り絵、塗り絵、版画など、長い冬の時間を生きがいをもって過ごし、ここに住んでいてよかったと思えるような町にしたい。	現在、公民館事業の高齢者学級「寿大学」の活動やふるさと学習館では、サークル活動として絵手紙、切り絵、版画などを楽しんでいます。今後もさらに参加者が増えるよう継続し、高齢者の生きがいづくりを推進します。

※意見の概要は、趣旨を変えない範囲で一部表現を改めている箇所があります。